

令和元年度第2回 江差町総合計画策定審議会 次 第

日時：令和元年10月28日（月）

午後4時00分～

場所：江差町保健センター

1 開会

2 副町長挨拶 江差町副町長 田畑 明

3 審議会長挨拶 江差商工会長 赤石 智恵美

4 会議成立宣言 江差町総合計画策定審議会規則第4条第3項

5 議長選出 江差町総合計画策定審議会規則第4条第2項

6 議事

報告第1号 事務の取組状況について

(1) 第1回策定審議会以降の取組 …2ページ

(2) 現行総合戦略及び人口ビジョンの総括検証結果 …4～6ページ

(3) 町民ワークショップのまとめ …5～6ページ

(4) 若手町職員ワークショップの政策提案 …別紙、配布資料

議案第1号 第6次総合計画（基本構想・基本計画）の策定イメージ及びフレーム案について
…別紙、配布資料

議案第2号 今後のスケジュール案について …3ページ

7 その他

8 閉会

MEMO

●第6次総合計画（第2期総合戦略）時系列スケジュール表

第1回策定審議会以降の取組

月	内容	備考
令元. 6月	5～17日 策定審議会委員就任依頼	・委員数20名
	6日 トップインタビュー	・コンサルより町長へインタビュー
	13日 令和元年第2回定例会	・総合計画策定条例制定
	25日 庁内策定委員会（課長会議）	・策定方針等説明
7月	1日 現行総合戦略の検証シート作成着手	・年度ごと成果調査シート
	9日 第1回策定審議会	・委員委嘱、委員諮問、策定方針、スケジュール等
	19日 現行総合戦略の庁内検証着手	・進捗状況、主な成果、課題及び今後の展望等
	25日 第1回町民ワークショップ	・南北一斉開催、テーマ“10年後も夢や希望を持って住み続けられるまち”、サブテーマ「活力あるまち」「安心して暮らせるまち」とは
8月	21日 現行総合戦略の庁内検証完了	・年度ごと成果調査シート完成
	28日 第2回町民ワークショップ（最終）	・活力あるまち⇒“お金を稼ぐ”、安心して暮らせるまち⇒“必要な居場所づくり”の実現方策
	現行総合戦略の庁内検証結果に係る意見照会	・総合戦略検証委員へ意見照会
9月	10日 現行総合戦略の庁内検証結果に係る検証委員の意見照会集約完了・町回答書の作成着手	・総合戦略検証委員から寄せられた意見に対して町の回答書を作成
	17日 第1回若手職員ワークショップ	・町民ワークショップ意見の実現に向けた検討
	17日 現行総合計画の庁内検証シート作成着手	・総括検証シート
	25日 第2回若手職員ワークショップ	・まちづくり推進課によるフォローアップ
	27日 現行総合戦略の庁内検証結果に係る検証委員意見に対する町回答書完成	・総合戦略検証委員から寄せられた意見に対する町の回答書
	30日 現行総合計画の庁内検証着手	・概況と主要課題、主な取組実績、今後の展望等
10月	3日 第3回若手職員ワークショップ	・町内若手経営者、振興局若手職員との意見交換
	4日 令和元年度第1回江差町総合戦略検証委員会開催	・現行総合戦略の計画期間（前4年と今年度）を総括的に検証
	8日 江差町総合計画等特別委員会対応	・町議会特別委員会（令和元年第3回定例会、発議第7号設置、議長を除く全議員）
	9日 現行総合計画の庁内検証シートの提出期限	・総括検証シート記入
	11日 情報提供（参考資料送付）	・令和元年度第1回総合戦略検証委員会資料、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定関係資料
	21日 議会決算特別委員会	・現行総合戦略各施策の前年度実績検証を含む決算審査
	25日 市街地活性化検討委員会（課長会議）	・若手職員ワークショップによる政策提案ほか

月	内容	備考
	28日 第2回策定審議会	・第1回以降の取組報告、総合計画フレーム案及び今後のスケジュール案の審議
	30日 現行総合計画の庁内検証完了	・総括検証シート完成
11月	5日 まちづくり懇話会（㊤18：30・水堀コミセン）	・農業者対象
	6日 まちづくり懇話会（㊤15：00、㊤18：30・対馬館）	・観光業者、商業者（小売業、飲食業等）対象
	7日 まちづくり懇話会（㊤15：00・漁村センター）	・漁業者対象
	中旬 第3回策定審議会	・第2回以降の取組報告、現行総合計画の総括検証結果報告、基本構想及び基本計画の素案審議
	下旬 第4回策定審議会	・第3回以降の取組報告、基本構想及び基本計画の素案審議
12月	中旬 第5回策定審議会 ※計画審議としては最終回予定	・第4回以降の取組報告、基本構想及び基本計画の原案審議
	下旬 基本構想及び基本計画の原案修正（パブコメへ付す基本構想及び基本計画作成）	・コンサルへ修正指示
	令和2年度地方創生推進交付金応募・地域再生計画策定	・この応募までに推進交付金に申請する事業内容を決定している必要がある。
	庁内策定委員会（課長会議）	・パブコメへ付す基本構想及び基本計画の提示
令2.1月	上旬 パブリックコメント	・10日間程度
	地方創生推進交付金、国へ事前相談	
	下旬 「パブコメを踏まえて」基本構想及び基本計画の最終案の修正（次期総合計画及び次期総合戦略最終案の完成）	・コンサルへ最終修正指示
	答申書の案の作成	・策定審議会から町長へ提出する答申書
	令和2年度地方創生推進交付金実施計画提出・地域再生計画提出	
2月	中旬 第6回策定審議会	・次期総合計画及び次期総合戦略の最終案の提示 ・策定審議会から町長へ答申書を提出
	下旬 庁内策定委員会（課長会議）	・次期総合計画及び次期総合戦略の提示、策定審議会の答申書提示
3月	中旬 令和2年第1回定例会	・次期総合計画の基本構想上程
	下旬 令和2年度地方創生推進交付金内示→申請・地域再生計画認定	・内示受領後、交付申請
4月	上旬 第6次総合計画及び第2期総合戦略の施行	・次期計画スタート
	令和2年度地方創生推進交付金交付決定	・令和2年4月1日付け交付決定決定
	中旬 第6次総合計画書及び第2期総合戦略の配布	・委員、議会、振興局ほか
	下旬 第6次総合計画及び第2期総合戦略の概要版折込み（5月号町広報紙）、概要版公表（町HP）	・町民及び一般向け

注）地方創生推進交付金は、町総合戦略に記載された事業を盛り込んだ地域再生計画の認定を受ける必要があります。地域再生計画は、道を経由せず、各町から国へ直接申請します。募集時期は概ね交付金と同時期とされています。

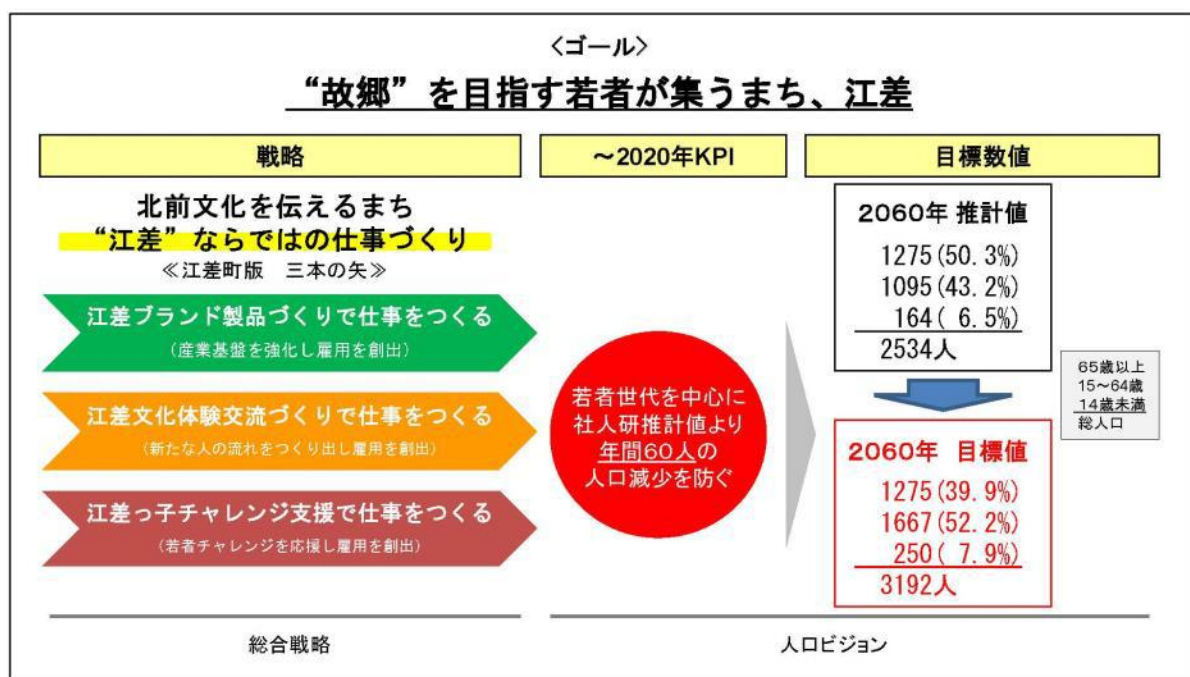
(2) 現行総合戦略の総括検証結果について

- ① 庁内検証 7月19日（金）～8月21日（水）
…総括検証完了後、各検証委員に「年度ごと成果調査シート」を送付
- ② 意見照会 8月28日（水）～9月6日（金）
…「年度ごと成果調査シート」に関して各検証委員に意見照会
- ③ 回答書作成 9月11日（水）～9月26日（木）
…「年度ごと成果調査シート」に関する検証委員意見に対する町の回答書。回答書作成後、人口ビジョン検証結果とともに各検証委員に送付
- ④ 検証委員会 10月4日（金）

●第1期江差町人口ビジョンの「目指すゴール」

本提案の要旨

総合戦略、人口ビジョンのゴールを「“故郷”を目指す若者（20～40歳代）が集うまち、江差」とし、それに向け“江差”ならではの仕事づくりを3つの切り口で徹底して行う戦略と、年間60人の人口減少を防ぐという2020年KPIを設定しました。

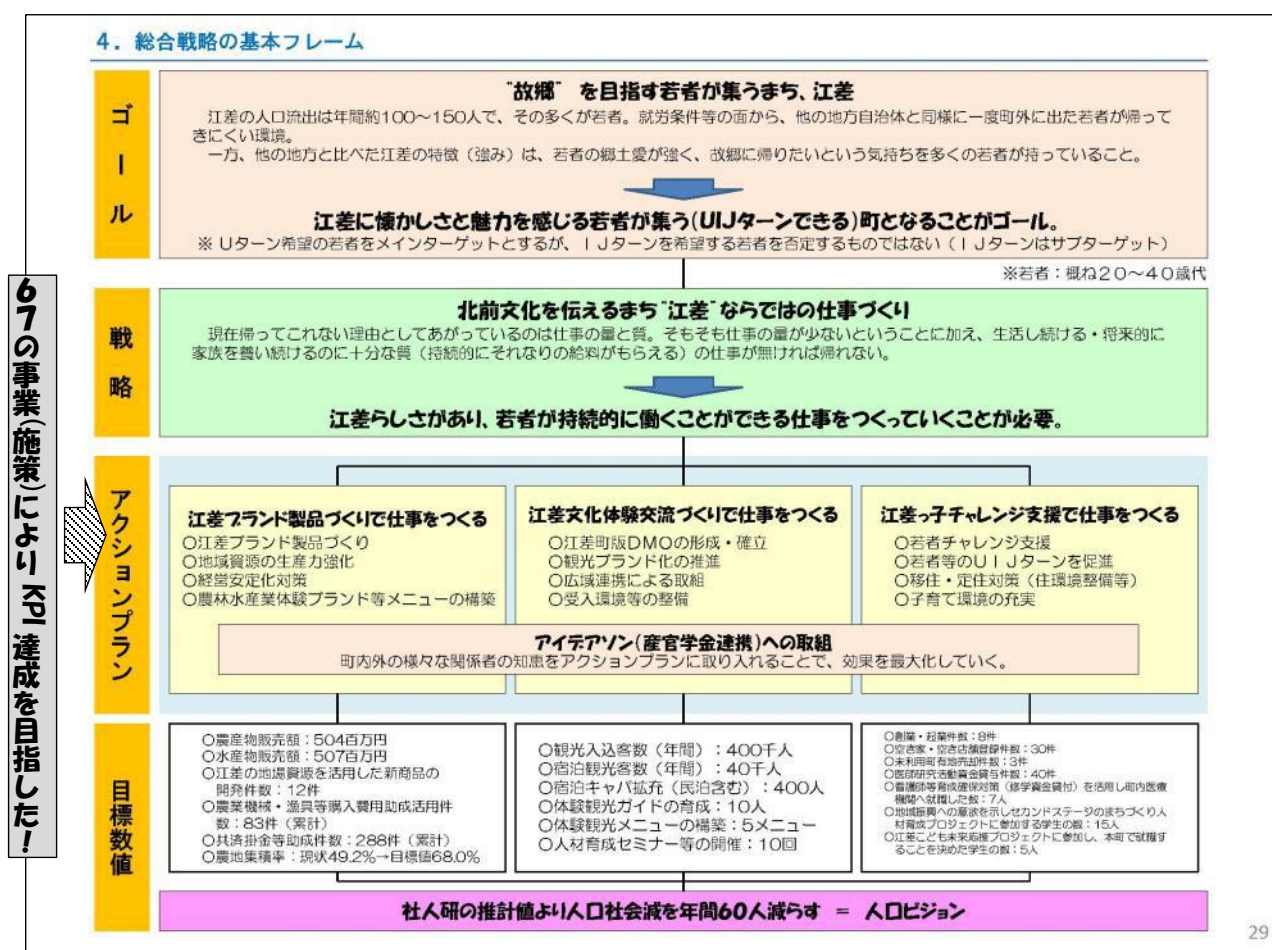


【検証結果】

- ア** 町ビジョン策定当初の基礎数値は、社人研による平成25年3月推計。今回、社人研から最新値として令和元年6月推計が示された。総人口について、2015年を100%（8,248人）とした時の比率で比較してみたところ、45年後の2060年では、H25推計の30.7%（2,534人）に対しR1推計が26.8%（2,208人）と3.9%（326人）下落したが、この程度の差は大きな違いとはいえないと考えた。
- イ** 同じく年齢3区分別人口を2015年比で比較してみたところ、2035年ごろまでは当初の推計よりも、生産年齢人口（15～64歳）は高く高齢者人口（64歳以上）は低く改善しており、総合戦略の各取組に一定の効果があったと考えることができた。
- ウ** 自然増減と社会増減は、過去からのトレンドに大きな変化はなく、人口減少と比例して出生数も出産年齢層人口も減少している。

- エ 当町の人口移動は、一貫して道内志向（特に札幌市、函館市）の強い状況がわかる。
- オ 人口減少に伴い、特に二次産業や小売業労働者の減少が顕著である。
- カ 今年8月末の住民記録人口は、2020年におけるH25推計・R1推計のどちらよりも多い結果となっており、今後2020年を迎えたとしても推計値と同水準あるいはそれ以上の総人口と見込むことが可能である。
- キ 以上を総合的に判断して、第1期人口ビジョンについては目標達成が難しい状況にあるが、第1期ビジョン策定時の推計値と最新推計値との違いは僅かであって、むしろ年齢3区分比率に改善がみられることから、次期人口ビジョンについては、最新の推計値等により時点の修正は必要であるものの、基本的な方向性を見直す必要はない。

●第1期江差総合戦略の基本フレーム



【検証結果】

- ア 第1期総合戦略については、19KPI中、12KPIが達成される見込み。率にして63%。一部未達成があるが、取組みの成果が概ね順調に推移してきた。良好な達成状況と捉えてもよい。
- イ 1本目の矢「江差ブランド製品づくりで仕事をつくる」について、各施策の成果が、どのように農産物販売額や水産物販売額に影響したのか等、的確な効果分析や新商品の事業化、農林漁業・商工業の持続的な環境をいかに充実・強化していけるかが課題である。
- ウ 2本目の矢「江差文化体験交流づくりで仕事をつくる」について、観光入込客数及び宿泊客数については依然厳しい結果であり江差版DMOを中心とする観光まちづくりの更なる強化策が求められる。関係人口の増加や外貨獲得ということでは、情報戦略ということに

も一層学んでいく必要がある。また、バリアフリーレジャーや東京都大田区連携など、広域的な観光ルート・観光ツアー造成のため管内連携強化に努めること。

エ 3本目の矢「江差っ子チャレンジ支援で仕事をつくる」について、創業・企業施策として、まちづくり推進交付金の制度設計は検討を要する。幼児教育・保育の無償化や子どもの貧困対策等、セーフティネットが全国画一的な取組みになってきている背景にあって、いかに江差ならではの施策を打ち出せるかが鍵になる。

オ 以上を総合的に判断して、次期総合戦略の策定にあたっては、現行の枠組みを継承しつつ新たな視点やターゲットを探りながら必要な強化を図る。なお、アクションプランに紐づく各施策が、どのような論理構成でKPIに結びついていくのか、的確なPDCAサイクルを回すため企画段階から多角的な視点で事業効果・成果を考えべき。

カ 町の実践が町民にとっても、誰にとっても知ってもらえるよう、資料の「可視化（見える化）」に可能な限り努める。可視化資料は積極的に公表し、町民と共に情報共有する。

キ 総合戦略に掲げた目標について、今ある江差の現状とのギャップにきちんと向き合う。達成できたことには何がうまくいったのか、達成できなかったことにはその原因を考え、次善策や対策の強化に繋げていくことが大切である。

ク 今年度で計画期間の5年間で終了する。来年度は、全計画期間を総括する最後の検証委員会を開催し、第1期の取組みをまとめた可視化資料（見える化資料）に基づき検証する。可視化資料は、町民向け概要版の公表を検討する。

●可視化（見える化）の例

活用事例②：地域ブランド開発等支援事業

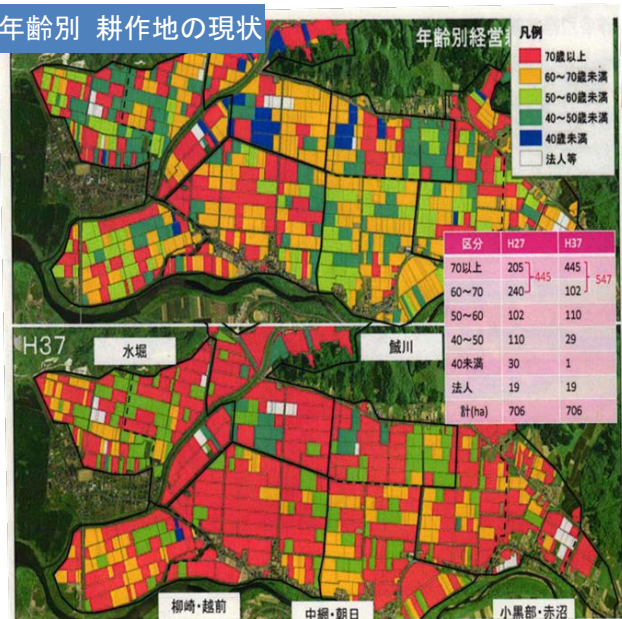
活用事例①：空き店舗等再生促進事業



入館者カウントセンサー設置(ぷらっとえさし)



経営者年齢別 耕作地の現状



(3) 町民ワークショップの結果について

★主テーマ「10年後も夢や希望を持って住み続けられるまち」

① 第1回（7月25日木曜日・午後6時30分～、文化会館23名・水堀コミセン16名）

ア 話し合いの視点 「活力あるまち」「安心して暮らせるまち」

イ 話し合いの結果

- ・全体を通して「人」が大きなキーワードになった。
- ・人の流れ、人と人とのつながり、笑顔、心などについて、両会場、両テーマ共通して数多くの意見が出された。
- ・人口減少や少子化、超高齢化社会に対応した交通体系や子育て環境についての意見も多かった。

★活力あるまちであるためには…。

- 安全・安心（子ども・高齢者・障がい者）
- 超高齢化社会に対応した交通体系
- 健康志向への対応（いつでも、誰でも）
- スポーツ環境の整備
- 夜の繁華街の活性化
- 外貨を稼ぐ
- かもめ島を最大限活かす施策
- 本物の歴史・文化（文化財・祭り）

★安心して暮らせるまちであるためには…。

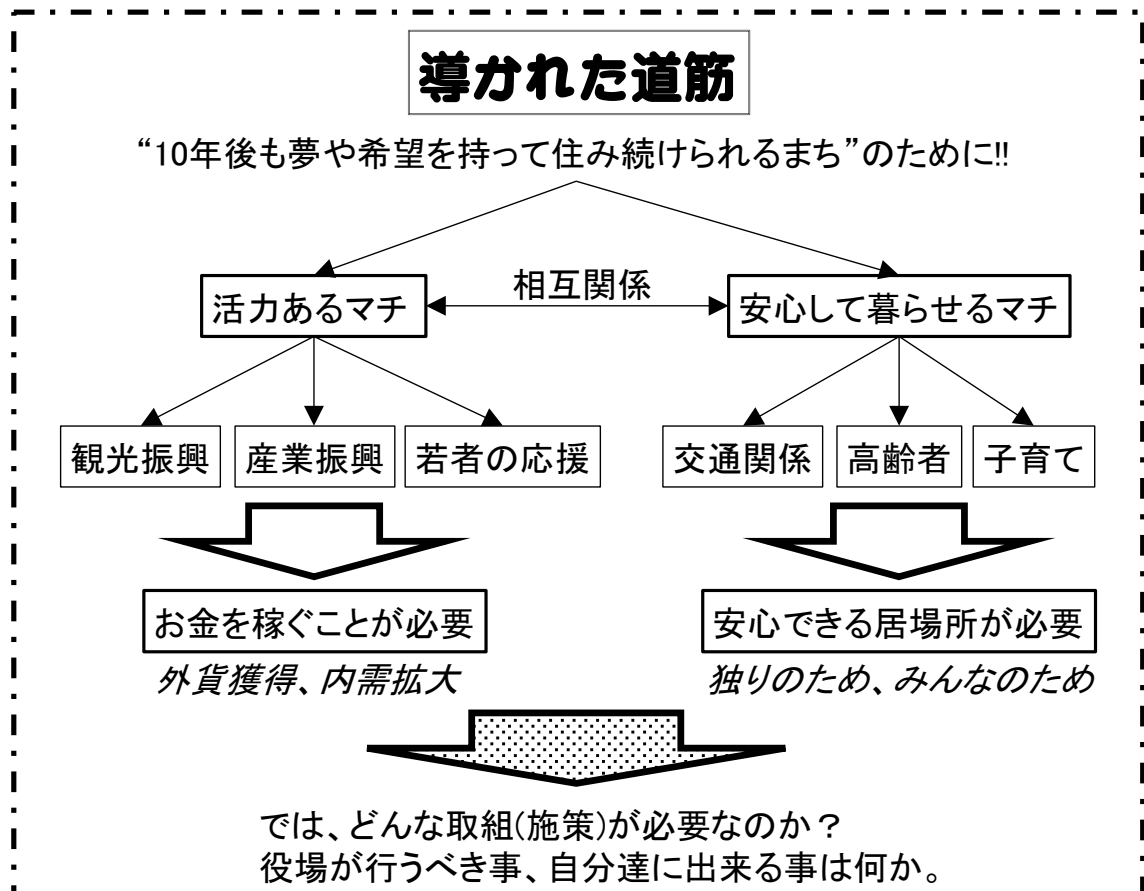
- 安全・安心（子ども・高齢者・障がい者）
- 人と人とのつながり
- 超高齢化社会に対応した交通体系
- 空き地、空き家、空き店舗の有効活用
- 医療環境の充実
- 働く場所の創出
- 職員の資質向上

② 第2回（8月28日水曜日・午後6時30分～、文化会館10名・水堀コミセン10名）

ア 話し合いの視点 「活力あるまち」のためには… → 「お金を稼ぐ」

「安心して暮らせるまち」のためには… → 「必要な居場所づくり」

イ 話し合いの結果



文化会館 第①グループ
検討テーマ:【お金を稼ぐ】

私達が考えた『稼ぐための方策』

こんなことが必要！

観光(外貨)	産業の付加価値	地産地消
・宿泊者を増やす ・なべまつのグランプリを商品に ・飲食店等へのアクセスがすぐ検索できるようなサイトを構築 ・観光の方向性を確立 ・もっとPRを行う ・子どもの遊び場をつくる ・飲食店を活性化	・商品価値のストーリーづくりが大切 ・各宿泊施設が提供する食事で江差らしい統一した品を決める ・ナマコの付加価値を上げる	・産業間で連携強化(農業・漁業・商業) ・地産産を町民が日常的に購入できる仕組み ・給食に地域のものを取り入れる ・地産産を活かす

なので...

『観光客に満足してもらう』

を提案します！！

- 目的
江差に足を止めてもらう、泊まってもらう
- 内容・手法
・宿は檜山管内皆同じ食材。「江差らしい」食材の提供
・「観る」「食べる」「体験する」を楽しみ、まずは一日江差に滞在してもらう
- 効果
・食材提供者、宿泊事業者、観光、飲食店の活性化
・リピーターを増やし、より江差の魅力に触れてもらう
・「働く場所」の増加
・各産業間のコラボレーション

文化会館 第②グループ
検討テーマ:【必要な居場所づくり】

私達が考えた『必要な居場所』

こんなことが必要！

誰のため	解決すべき課題	情報発信
・高齢者が集える ・男性が集える ・気軽に集える ・町内会が集える ・転勤者が集える ・町民同士が集える	・空きスペースが多い ・近くにある拠点づくり ・話し相手が見つかりにくい ・町民無料の追分会館で集まる ・人との繋がりがつくれる仕組みが必要 ・老人クラブ活動(会員数)が減ってきている ・スポーツができる屋内施設	・町に広報活動ができる機関があればいい ・アピールや宣伝が必要 ・情報発信が足りない ・広報紙以外のアピール

なので...

『街なかの公共施設等を活用した
ひとの交流の創出と情報発信の強化』

を提案します！！

- 理由
人とのつながりが薄くなってきているため
(子ども会・老人クラブ・町内会の会員減少、若い夫婦同士のつながり、転勤者と地元の方のつながり交流)
- 目的
多様な町民の交流場所を確保
(公共施設、民間施設などを活用)

水堀コミュニティセンター 第①グループ
検討テーマ:【お金を稼ぐ】

私達が考えた『稼ぐための方策』

こんなことが必要！

観光	食
・障がい者が遊べる ・奥尻を観光メニューに入れる ・手ぶら観光 ・厚沢部の道の駅のような産直 ・埠頭の整備 ・かもめ島周辺の整備、活用 ・遊ぶ場所の創出(ゴーカート、セグウェイなど) ・お土産の充実	・江差産のものが食べられる ・朝市のような場所 ・フードコート(複数の飲食店が集合し、座席を共用しているセルフサービス形式の飲食スペースなど) ・江差の看板メニュー(特産品)となるものをつくる ・自分で選んだ海の幸を調理して食べられる ・通年通して食べられる

なので...

『かもめ島を活かした食と遊びの空間づくり』

を提案します！！

- 理由 観光客を呼び込む
- 効果 観光客の増、経済活性化
- 内容
- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・手ぶらでできるキャンプ ・フードコート ・近郊のものを使った井ぶり | <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">観光メニュー化</div> |
|--|--|
- 実施主体 第一次産業者・民間企業(起業支援も含む) など

水堀コミュニティセンター 第②グループ
検討テーマ:【必要な居場所づくり】

私達が考えた『必要な居場所』

こんなことが必要！

誰のため	解決すべき課題	欲しい機能
・趣味を共有する仲間 ・子どもが安心して遊べる ・学童保育 ・子どもが交流できる	・公園の遊具を充実 ・スポーツができる屋内施設 ・スクールバスの停留所を充実 ・公民館等の開放日をつくる ・買い物に困らない ・自宅を活用	・働ける ・ふれあいサロン ・食事会 ・ドローン講習が受けられる ・夕陽が見える

なので...

『趣味を活かせる場所』 『子どもが集える場所』

を提案します！！

- 目的 趣味を通じて交流する
- 対象 子ども・大人
- 効果 趣味がお金になる
- 内容
- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに昔の遊びを教える ・遊具を自作 ・流木を活用 ・作品を展示 | <p>○理由 遊具があれば集まれる</p> <p>○目的 子どもを通じた交流</p> <p>○対象 子ども</p> <p>○効果 子どもを通じた親の交流</p> |
|---|--|

(4) 若手町職員ワークショップの政策提案 …別紙、配布資料

- ① 実施趣旨 次期総合計画策定に向け「10年後も夢や希望を持って住み続けられるまち」をテーマに、「活力あるまち」となるためには「お金を稼ぐ」、「安心して暮らせるまち」となるためには「必要な居場所づくり」を話し合いの視点として、町民ワークショップを開催した。町民から寄せられた貴重な意見・アイディアは、次期総合計画期間において中心的に町政運営を担うべく若手町職員によって、更に磨き上げ次期総合計画に反映し実現するための具体的方策（取組み）を検討した。本ワークショップは、職員研修としての位置づけでもある。
- ② 実施日時 第1回（9月17日火曜日）、第2回（9月25日水曜日）、
第3回（10月3日木曜日）、第4回（10月25日金曜日）
※第2回目は、フォローアップとしてまちづくり推進課に対するプレゼン
※第3回目は、フォローアップとして外部人材（民間2名、振興局2名）に対するプレゼン
※第4回目は、政策提案として課長会議においてプレゼン
- ③ グループ
- 第1グループ：「観光客満足度向上対策」のため
⇒ 情報発信と宿泊施設・特産品の充実化
【水産係長 菊地 伸博，財政係 中島 崇詞，課税係 成田 晃貴，
介護保険係 梅村 理史，行政組合 小山内 雄清 計5名】
 - 第2グループ：「かもめ島を生かした食と遊びの空間づくり」のため
⇒ かもめ島パワーキャンプ場プロジェクト
【介護保健係 石橋 潤，農地係長 畑 博之，農務係長 森 隆大，
水産係 木村 幸香，広報統計係 野口 耕史 計5名】
 - 第3グループ：「子どもが集える場所」のため
⇒ 逆川森林公園リニューアルプロジェクト
【地域包括支援係 明上 路子，図書係 川村 奈津希，
防災生活係 岸田 駿祐，住宅管財係 竹内 祥悟，課税係 木下 美生，
社会教育係 高橋 昇悟，健康推進係 木口 華佳，
学校教育係 金田 朋也 計8名】

●第1回目、全体にて議論



●外部人材との意見交換（プレゼンの様子）



